神の建造のための祭司職の回復（2）祭司の体系の二つの位

鳥瞰	祭司の基本的な意義は、人が神から来て、神のものを人に供給することです。祭司の体系の二つの位は、聖なる体系と王なる体系です。第一の位は、アロンの祭司職の面、聖なる祭司の体系であって、わたしたちの罪のためのささげ物と関係があります。第二の位はメルキゼデクの祭司職の面、王なる祭司の体系であり、それは手順を経た神を人の中へと供給するためです。聖なる祭司職の体系は神へとささげられた霊のいけにえであり、王なる祭司の体系は神の美徳を告げ知らせます。	
	真理要点	**経験適用**
1日	1. 祭司の事柄において、聖書の中で最初に述べられている、確立された原則とは何でしょうか？ 2. 祭司の最も主要な責任と働きとは何ですか？	1. 聖書の中で、最初に出てくる「祭司」という言葉は、創世記第14章で述べられているメルキゼデクについてです。メルキゼデクはいと高き神の祭司であり、彼は神から人に来て、神のものを、神を追い求めるアブラハムに供給しました。そういうわけで、祭司職の基本的な物語は、神から来て、神のものを神の民に供給することです。 2. 大祭司としてのキリストに関する主要な点は、彼が神に仕えることでなく、神をわたしたちに供給することです。彼は絶えず一つのこと、すなわち、神をわたしたちの中へと供給し、わたしたちを元気づけ、維持し、支え、増強し、養い、わたしたちを神のあらゆる豊富をもって成長させます。これが祭司の第一義的な職務です。
2日	1. 聖なる祭司の体系とはどういったものですか？ 2. ヘブル人への手紙第7章27節はわたしたちに何を啓示していますか？	1. アロンの位は聖なる位です。聖となることは、俗な事物、この世的な事物から分離されて、主へと帰されることです。召会の奉仕を持つために、わたしたちすべては共に建造される必要があります。またわたしたちは分離された民であって、この世から、俗な事物から、普通の方法から分離されるべきです。分離されて神へと帰されるとは、聖とされて神へと帰されることです 2. この節はわたしたちに、わたしたちは二度と罪によって煩わされる必要はないと保証しています。なぜなら、キリストがわたしたちの罪のために、一度で永遠にご自身をささげられたからです。十字架上で、彼は一度で永遠に罪の問題を解決されました。彼は真の罪のためのささげ物、唯一の罪のためのささげ物であり、わたしたちの罪のためにご自身を神にささげられました。キリストは一度で永遠に、わたしたちの罪のためにご自身を神にささげられたので、それを再び行なう必要はありません。それは、一度で永遠に完成されました。
3日	1. わたしたちの大祭司キリストは、メルキゼデクの位であるその目的は何のためですか？ 2. メルキゼデクの位がアロンの位よりも高いことについて説明してください。	1. メルキゼデクが大祭司であるのは、わたしたちの罪のために神にいけにえをささげるためではなく、手順を経た神を恵みとしてわたしたちの中へと供給するためです。罪は去り、神の享受が来ました。もはや罪のためにいけにえをささげる事柄ではなく、わたしたちの享受のためにパンとぶどう酒を供給する事柄です。天の御座での彼の務めは、わたしたちに罪に対する勝利を供給します。彼の十字架は、わたしたちをエジプトから救い出しました。彼の御座は、わたしたちをカナンへともたらします。 2. キリストは彼の天の務めにおける働きにおいて、メルキゼデクの位によるわたしたちの大祭司でもあり、わたしたちのためにとりなしておられます。メルキゼデクの位はアロンの位よりも高いのです。アロンの位は人性だけにおける祭司職のためでしたが、メルキゼデクの位は人性と神性の両方における祭司職のためです。
4日	1. どのようにして聖なる祭司職と王なる祭司職を適用しますか？ 2. 召会生活の中でどのようにして祭司の体系を経験し運用しますか？	1. 一方で、わたしたちは聖なる祭司であり、民を代表して常に神へと行きます。もう一方で、わたしたちは神を代行して神から民へと来ます。わたしたちは出て行って福音を宣べ伝える前、祈りの中で神に行き、日夜祈って、神の御前で罪人を代表すべきです。その時、わたしたちは聖なる祭司です。そして、わたしたちが罪人に行って福音を宣げ知らせ、神を代行して恵みと命を供給するとき、わたしたちは王なる祭司です。 2. 召会生活の中には多くの奉仕のグループがあります。すべての奉仕のグループは、祭司職でもなければなりません。奉仕のグループは、ただその奉仕のためだけであってはなりません。あらゆる奉仕のグループの兄弟姉妹は、絶えずキリストにある神の豊富を、人々へと供給しなければなりません。あなたは自分の奉仕のグループの中で人々へと、神を供給する必要があります。結果、全てのグループが一つの祭司の体系と成ります。
5日	1. キリストを罪のためのささげ物として、また違反のためのささげ物とすることと、キリストを全焼のささげ物とすることにはどのような違いがありますか？ 2. ヘブル人への手紙第13章１５節で提示されている思想の深遠さについて説明してください。	1. キリストを罪のためのささげ物として、また違犯のためのささげ物として神へとささげるために、人はキリストのどんな経験も必要としません。罪人は福音を聞き、悔い改めれば直ちに赦されます。これはキリストの経験を必要としません。わたしたちはキリストを全焼のささげ物として神へとささげようとするなら、キリストの経験の中でキリストを経験する必要があります。わたしたちがキリストを全焼のささげ物として経験したことにしたがって、自分が経験したキリストを神へとささげます。 2. わたしたちはイエスのそしりを担い、彼のために苦しむとき、しばしばうめき、少しも神に賛美をささげません。しかしヘブル人への手紙の著者は、わたしたちがそしりと苦難を経過するとき、絶えず賛美のいけにえを、神にささげるべきであるとわたしたちに告げています。最初に、わたしたちは召会の中で、彼を通して絶えず賛美のいけにえを神にささげるべきです。召会の中で、わたしたちも彼を通して、父なる神を賛美すべきです。最終的に、召会の中で彼とわたしたち、わたしたちと彼は、ミングリングされた霊の中で共に、御父を賛美します。
6日	1. ペテロの第一の手紙第2章9節で種族、祭司の体系、聖なる国民、民はみな集合名詞ですが、この意義は何でしょうか？ 2. 神はどのような美徳がありますか？またわたしたちはどのようにして美徳を告げ知らせますか？	1. **選ばれた種族は**、わたしたちが神からの血統であることを示します。**祭司の体系**、祭司の一団として、わたしたちは王なる、貴重な者であり、それは神に対するわたしたちの奉仕を示します。**聖なる国民**として、わたしたいは聖です。それは神のためのわたしたちの共同生活を示します。**所有の民**として、わたしたちは神の所有、神の宝として神によって特別に獲得され所持された所有です。それは神に対するわたしたちの尊さを示します。 2. 告げ知らせるとは広く宣べ伝えることを意味します。広く宣べ伝えるとは、わたしたちを暗やみから驚くべき光の中へ召してくださった方の美徳を明示することによって、人に益を得させることです。美徳は、卓越性、卓越して栄光ある美徳です。これらは神であるものと神が所有しているもの、彼の栄光の中で神の驚くべき光が完成するものを指しています。神には多くの美徳があります。例えば、彼はあわれみ深いのです。神はまた愛する方でもあります。この愛は神のもう一つの美徳です。すべての卓越した神聖な属性は、神の美徳です。
まとめ	祭司の基本的な意義は、メルキゼデクがアブラハムにパンとぶどう酒を供給したのと同じように、神から来て、神のものを人に供給することです。わたしたちは神の御前に行き、神によって浸透され満たされる必要があります。それはアロンとその子の「聖なる職の任命」でその両手が満たされたようにです。出て行き人を訪問し、養うことはわたしたちのクリスチャン生活にあるべきことです。まず聖なる祭司として神の前で祈り、罪を告白し、それから人の間で王なる祭司として、神のものを人に供給します。またわたしたちは霊のいけにえをささげるだけでなく、神の美徳を広く宣べ伝える必要があります。	